

# 天白川 川づくり検討会（第1回）

## ○天白川川づくり検討会

「天白川をもっといい川に」を目的として、治水と環境（自然環境、人の利用、景観）を両立する川の計画をつくるため有識者、地域の代表者による意見交換を実施しました。

### 会議概要

■日時 令和4年3月24日（木） 14時30分～16時

■場所 天白区役所 講堂

#### ■検討会構成メンバー

有識者、区政協力委員長、天白区を住みよくなる会、天白・川辺の楽校、名古屋市天白区、愛知県河川課、愛知県尾張建設事務所（当日参加者計29名）

#### ■有識者

吉村 伸一（株式会社吉村伸一流域計画室代表取締役）  
長谷川 明子（ビオトープ・ネットワーク中部会長）  
林田 寿文（土木研究所自然共生研究センター主任研究員）  
河野 誉仁（土木研究所自然共生研究センター専門研究員）  
坂本 貴啓（東京大学地域未来社会連携研究機構 特任助教）

### 状況写真

#### < 会議状況 >

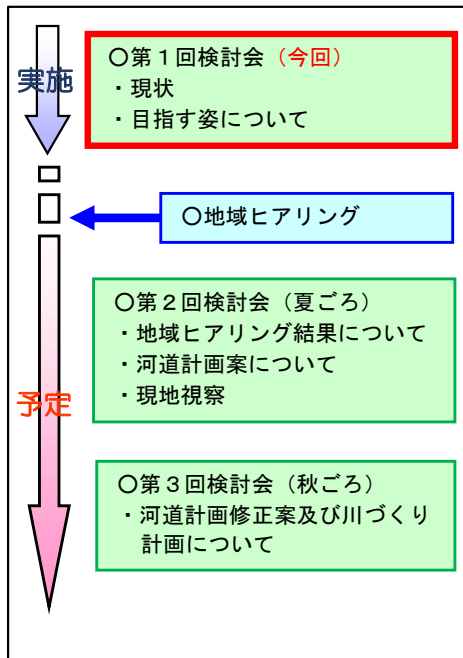


#### < 有識者による現地確認 >



### 検討会議での主な議題

#### 《川づくり検討会の進め方》



#### 《目指すこと(案)》

- ①自然環境
  - ・川幅（低水路）を広くとり、水際と流れを多様化する。
  - ・落差を緩和し、上下流の連続性を改善する。
- ②景観（風景）
  - ・より良い景観（風景）とする。
- ③人の利用
  - ・利用動線の連続
  - ・水辺へのアクセスの改善



天白小橋から下流方向の風景

#### 《意見交換》

- ①昔の天白川はどうだったのか
  - ・現在の国道302号付近で右岸にぶつかって南向していた。昭和の初めに堤防ができて現在の川の形になっている。
  - ・2000年に川辺の楽校を立ち上げ、当時はまずゴミ掃除が大変だった。子供を川に入れる際もガラスなどでけがをしないかに気を使った。現在ではごみはかなり少なくなった。
- ②これから、どんな天白川がいいのか
  - ・高水敷を残してほしい。
  - ・水辺に近づけるようにしてほしい。
  - ・外来のカメが多いことが課題。在来魚類が減っているのではないかな。
  - ・川のビオトープの水がきれいにならないか。
  - ・植栽箇所が防犯上危険な場所と認識されている。樹木を手入れし、川面が見えるような形にできると良いのではないかな。

#### 《有識者の主な意見》

- ・堤防の柵は圧迫感がある。緑道のスペースを用いて堤防天端幅を広げるなど、安全性を考慮し、柵を無くすることができるのではないかな。
- ・魚の移動にやさしくない状況だと考えられる。魚類が豊富になれば外来のカメによる捕食も気にならなくなるのではないかな。
- ・水辺の環境がやや単調なので、淵の形成や川底の変化を創出する、護岸を目立たなくするなどの工夫が必要。
- ・以前どんな動植物が生育していたかななどを教えて欲しい。名古屋市に特徴的な動植物の生息環境を作っていけるとよい。
- ・誰に喜んで貰う川づくりとするか考えると良いのではないかな。近くの団地の子育て世代向けにヒアリングすることも検討するとよい。